

# CSRマネジメント

事業活動のあらゆる場面で、社会的責任を果たすため、CSRの経営への組み込みを推進しています。



**WEB** WEBでも情報を開示しています。  
<http://www.maxell.co.jp/jpn/csr/index.html>

## CSR活動の考え方

マクセルグループでは、CSR活動を体系的かつ継続的に行うため、グループの果たすべき使命と役割を示す「企業行動基準」を定め、「CSR活動取り組み方針」を策定することで、従業員の実践的行動を促しています。

また、日立グループ全体で相乗効果が得られるよう、各社と緊密に連携しています。

## CSRマネジメント (CSR活動の自己評価とその結果)

マクセルグループでは、日立グループで開発されたCSRセルフアセスメントツールに基づき、CSRのあるべき姿に対する位置づけと方向性を検証しています。このツールは、世界の主要なSRI※1評価やGRI「サステナビリティ

ティリポーティングガイドライン2006」などの評価項目をもとに、外部コンサルティング会社の協力を得て作成されたもので、8つの方針ごとに活動の現状を自己評価・分析し、自社の強み、弱みを明確にしています。

2012年度は、「グリーン調達ガイドライン」の「生態系の保全」についての記述を強化した上で、あらためて購買取引先に、積極的な環境保全と納入品の環境負荷低減への配慮をお願いしました。こうした取り組みの結果、セルフアセスメントの8つの方針のうち、「ビジネスパートナーとの社会的責任意識の共有化」についての評価が、2011年度の2.5から、2.9に向上しました。

## コーポレート・ガバナンス

マクセルグループでは、「その創業の精神

である“和協一致”、“仕事に魂を打ち込み”、“社会に奉仕したい”をさらに高揚させ、日立マクセル人としての誇りを堅持し、優れた自主技術・製品の開発を通じて社会に貢献すること」を基本理念に明記しています。

この理念の実現に向けて、「基本と正道」に則り、企業倫理と法令遵守に根ざした事業活動を展開するため、「日立マクセルグループ行動規範」を制定しています。さらに、適正な経営体制の構築、内部統制システムの整備を進め、コンプライアンス体制の整備にも随時取り組んでいます。

また、輸出管理については、輸出管理委員会体制を設置し、大量破壊兵器・通常兵器への自社製品の転用防止と関連法令遵守を目的として、正確な該非判定、厳格な用途・需要者審査(キャッチオール規制審査)に努めています。

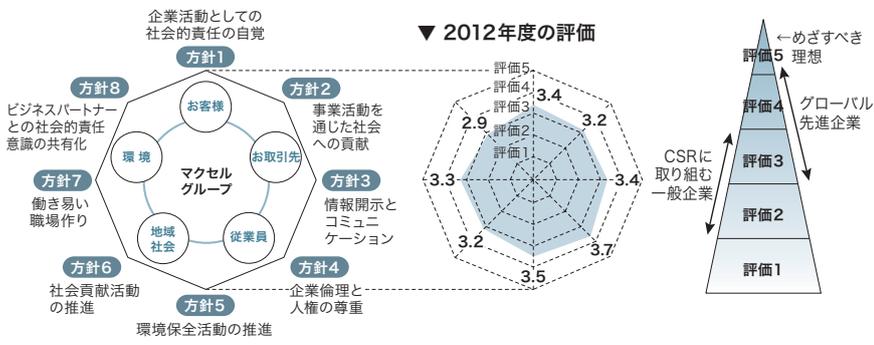
2012年度は、外部講師を招いての講演会や、全社員を対象とした輸出管理基礎教育(e-ラーニング)、各規制項番別の該非判定講座などの教育を実施しました。

また、人権教育として「パワーハラスメント防止研修」を実施したほか、日立マクセルは個人情報保護の一環として、2013年4月にプライバシーマークを取得しました。



※1 Socially Responsible Investment 社会的責任投資

## CSR活動の自己評価とその結果



## ▼ISO26000とマクセルグループの取り組み

社会的責任の中核主題	課題	マクセルグループの取り組み
組織統治	組織統治	<ul style="list-style-type: none"> <li>CSR活動の考え方</li> <li>CSRマネジメント</li> <li>コーポレート・ガバナンス</li> </ul>
人権	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. デューデリジェンス</li> <li>2. 人権に関する危機的状況</li> <li>3. 加担の回避</li> <li>4. 苦情解決</li> <li>5. 差別及び社会的弱者</li> <li>6. 市民的及び政治的権利</li> <li>7. 経済的、社会的及び文化的権利</li> <li>8. 労働における基本的原則及び権利</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CSRマネジメント</li> <li>CSR調達の推進</li> <li>多様性の確保</li> </ul>
労働慣行	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 雇用及び雇用関係</li> <li>2. 労働条件及び社会的保護</li> <li>3. 社会対話</li> <li>4. 労働における安全衛生</li> <li>5. 職場における人材育成及び訓練</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>労働安全衛生活動</li> <li>働きやすい職場づくり</li> <li>多様性の確保</li> </ul>
環境	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 汚染の予防</li> <li>2. 持続可能な資源の利用</li> <li>3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応</li> <li>4. 環境保護、生物多様性、及び自然生息地の回復</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CSR調達の推進</li> <li>環境マインド&amp;グローバル環境経営</li> <li>次世代製品とサービスの提供</li> <li>環境コミュニケーション</li> <li>環境に高いレベルで配慮した工場とオフィス</li> </ul>

社会的責任の中核主題	課題	マクセルグループの取り組み
公正な事業慣行	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 汚職防止</li> <li>2. 責任ある政治的関与</li> <li>3. 公正な競争</li> <li>4. バリューチェーンにおける社会的責任の推進</li> <li>5. 財産権の尊重</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コーポレート・ガバナンス</li> <li>購買取引先との公平な取引</li> <li>購買取引先とのCSR意識の向上に向けて</li> <li>CSR調達の推進</li> </ul>
消費者課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公正なマーケティング、事実即した偏りのない情報、及び公正な契約慣行</li> <li>2. 消費者の安全衛生の保護</li> <li>3. 持続可能な消費</li> <li>4. 消費者に対するサービス、支援並びに苦情及び紛争の解決</li> <li>5. 消費者データ保護及びプライバシー</li> <li>6. 必要不可欠なサービスへのアクセス</li> <li>7. 教育及び意識向上</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お客様満足(CS)の向上</li> <li>製品責任と品質の向上</li> </ul>
コミュニティへの参画及びコミュニティの発展	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニティへの参画</li> <li>2. 教育及び文化</li> <li>3. 雇用創出及び技能開発</li> <li>4. 技術の開発及び技術へのアクセス</li> <li>5. 富及び所得の創出</li> <li>6. 健康</li> <li>7. 社会的投資</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会貢献活動</li> </ul>

# 社会報告

全てのステークホルダーの期待に応え  
共存共栄の関係を築くために、取り組みを推進しています。



**WEB** WEBでも情報を  
開示しています。  
[http://www.maxell.co.jp/  
jpn/csr/index.html](http://www.maxell.co.jp/jpn/csr/index.html)

## お客様とともに

### お客様満足(CS)の向上

マクセルグループでは、「お客様満足(CS)の向上」を目指して、「お客様ご相談センター」が事業部門と連携して、お客様の声を製品、サービスに反映させる活動を積極的に展開しています。例えば、お客様のご意見・ご要望を反映し改良した製品の創造に注力しているほか、お客様ご相談センターでは、お客様からのご質問やご相談に迅速かつ適切に応えるように努めており、「応答率」「サンクスコール率」を指標として活用しています。

2012年度の応答率は80%、サンクスコール率は4.8%で、いずれも前年に比べやや低下しました。

### 製品責任と品質の向上

製品の絶対品質を向上させる「自工程品質保証活動」を継続的に推進し、お客様に安心してお使いいただける製品を提供できるように努めています。

2012年度は、テレビ用サラウンドスピーカー「SoundBoard」(MXSP-SB2000)の音源データ補正機能についての不具合1件が発生したため、ソフトウェアを無償更新する対応を早急に実施しました。

## お取引先とともに

### 購買取引先との公平な取引

マクセルグループでは、日立グループの「資材(購買)取引行動指針」を運用し、購買取引先との公正な取引に努めています。また、この行動指針を会社規則にも適用し、従業員への周知徹底を図っています。

### 購買取引先とのCSR意識の共有に向けて

マクセルグループは、事業部による「事業方針説明会」や年初の「賀詞交歓会」などを通じ、購買取引先とCSR意識を共有しています。

2013年1月に開催した賀詞交歓会では、社長より購買取引先の皆様に「CSR推進へ

のご協力」「基本と正道の徹底」をお願いしました。

### CSR調達の推進

マクセルグループでは、日立グループ作成の「CSR活動取り組み方針」「日立グループサプライチェーンCSR推進ガイドブック」にそって、CSR調達を推進しています。

2012年度は、「グリーン調達ガイドライン」において2011年に追加した「生態系の保全」に関する情報を充実させたことから、あらためて購買取引先に案内しました。

また、購買取引先に当社の環境ビジョン(「地球温暖化の防止」「資源の循環的な利用」「生態系の保全」)に理解・賛同してもらい、購買取引先が自らの環境方針として「地球温暖化の防止」「資源の循環的な利用」「生態系の保全」を盛り込むよう要請しました。具体的には、積極的な環境保全への取り組み、当社への納入品に対する環境負荷低減の配慮の2点をお願いしました。

## Topics

### 新しい音の体験を切り拓くツインドライバ搭載カナル型ヘッドホンを新発売

「繊細な高音域と迫力の中低音域再生」(MXH-DBA700)、「厚みのある高音域と迫力の低音域の再生」(MXH-DD600)というご要望にお応えする、高剛性アルミニウム切削ボディのハイエンドカナル型ヘッドホンです。

新音響技術と高音質を表すシンボルマーク「m(エム)」のもと、新しいブランドアイデンティティの構築に取り組んでいきます。



### 単3形/単4形兼用のニッケル水素電池充電器「ecoful CHARGER(エコフルチャージャー)」を新発売

「電池の充電だけではなく、充電器を持ち歩くことで、スマートフォンを充電したい」という声に応えた本製品は、ニッケル水素電池の充電器であると同時に、USB端子を通じてスマートフォンにも充電することができます。

USB端子からの出力には、ニッケル水素電池のほかアルカリ乾電池も使えるので、緊急の場合でもスマートフォンの充電が可能です。



### 総合肌チェック事業の新会社を設立

2013年5月、総合肌チェック事業の新会社であるマクセルスマートコミュニケーションズを設立しました。個人がスマートフォンで撮影した肌の画像をもとに、個人および参加企業に対して各種情報を提供するサービス「Hada more(肌モア)」を含む、肌チェック関連の事業を進めていきます。

## Topics

### グローバルなVEC活動を展開

お客様のための製品価値向上を目指すVEC(Value Engineering for Customers)活動として、取引先様とともに、部品・材料コスト低減に取り組みました。

エンジニアを中心とする新しい開発購買部門を立ち上げ、そのエンジニアリング力を活かし、取引先様との共同VEC活動を展開することで材料費の削減を実現。この取り組みを含めた原価企画活動の実績に対して、日立グループの「社長VEC賞」特賞を受賞し、現在は、中国・無錫の生産拠点にも同様の取り組みを拡大するなど、グローバルな展開を進めています。



地域・社会とともに

世界各地で社会貢献活動を展開

マクセルグループでは、CSR活動取り組み方針に「良き企業市民として、より良い社会を実現するため、社会貢献活動を積極的に推進します」と定めています。この方針にそって、「教育・文化支援」「環境保全・美化」をテーマに、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションや、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。

日立マクセル〈日本〉

「日立サイエンス・セミナー」として乾電池作りの教室を開催。小学4年生から中学2年生19名が参加しました。



マクセル(上海)貿易有限公司〈中国〉

公園への植樹や経済的支援が必要な学生への奨助を行いました。



Maxell Europe Ltd. 〈英国〉

植物の成長を学び環境意識を高める教育プロジェクトに、5,000ポンドを助成しました。



台湾マクセル有限公司〈台湾〉

省電力の取り組みの一環として、事務所の入口の電球を、LEDライトに変更しました。



Hitachi Maxell Global Ltd. 〈香港〉

香港日立グループと共同での地元海岸の清掃に、従業員6名が参加しました。



Maxell Corporation of America 〈米国〉

ハリケーン・サンディで自宅を失った社員に、会社と社員が義援金を送りました。



Maxell Asia (Singapore) Pte. Ltd. 〈シンガポール〉

東アジア市場のさらなる開拓のため、タイとインドに新たな事務所を開設しました。



Maxell Finetech (Thailand) Co., Ltd. 〈タイ〉

2011年の大洪水から復興し、2012年7月から本格的に操業開始。アジア向け一眼レフカメラの部品などを生産しています。



Maxell Tohshin (Malaysia) Sdn. Bhd. 〈マレーシア〉

ショッピングモールやカフェテリアなどで、献血運動を展開しました。



無錫日立マクセル有限公司〈中国〉

従業員とその家族あわせて34名が、美しい景観で知られる太湖で、清掃活動に取り組みました。



PT.SLIONTEC EKADHARMA INDONESIA 〈インドネシア〉

モスクに入りきれない礼拝者のための敷物として、生産調整時のPEシートを年3回提供しています。



その他の社会貢献活動

- 事業所周辺や地域の清掃活動に延べ820名以上が参加(東京ビル、大阪事業所、京都事業所、小野事業所、ファインテック事業本部、スリオンテック事業本部、九州マクセル事業本部)
- 工場見学、体験学習、インターンシップで410名以上の方と交流(京都事業所、小野事業所、ファインテック事業本部、九州マクセル事業本部)
- スポーツ、産業振興などの地域イベントに参加・協賛(京都事業所、小野事業所)
- 海外で製品の寄付を実施(フランス)。自然保護、清掃、献血、募金などのボランティア活動やスポーツイベントに参加・協賛(中国、マレーシア)
- 段ボール27箱分の冬服を貧しい農村に寄付(中国)

社外からの評価

- (株) 音元出版「デジタルカメラグランプリ2012 SUMMER」でAirStash「MAS-A02」が「金賞」を受賞、「ビジュアルグランプリ2012 SUMMER」で4製品が入賞(iVハードディスクレコーダー「VDRR2000.G50」、録画用ブルーレイディスク、ワイヤレス伝送スピーカー「MXSP-HF5000」、カナル型スポーツヘッドホン「HP-S20」)
- 兵庫県農政環境部より「第21回兵庫県環境にやさしい事業者賞」を受賞(小野事業所)
- 無錫市環境保護局から「緑色企業」として11年連続表彰(Wuxi Hitachi Maxell Co.,Ltd. 中国無錫工場)

- 「BCN AWARD 2013」DVD部門で「最優秀賞」を受賞
- GfK Japan CertifiedのDVD & BD部門で「2012 Certificate of Achievement of No.1」を受賞

「GfK Japan Certified」のトロフィー



「BCN AWARD2013」のトロフィー

## 従業員とともに

### 労働安全衛生活動

日立マクセルでは、「労働安全衛生基本方針」のもと、労働安全衛生活動を展開しています。

2012年度は、「日立マクセルグループ安全衛生委員会」が推進役となって、安全衛生活動の維持向上に努めるとともにOSHMS※1に準じたマネジメントシステムの構築を進めました。また、2011年度に引き続き、国内各事業所の「安全衛生委員会」が推進役として、安全衛生の向上に努めました。

### 働きやすい職場づくり

日立マクセルは、2009年6月に「次世代育成支援認定マーク(愛称:くるみん)」を取得するなど、働きやすい職場づくりに努めています。

2012年度は、企業活動の向上と活性化を目的として、従業員の意識調査を実施しました。結果をうけて、グローバル人材強化への取り組みや職場コミュニケーション促進などの施策を推進しています。

また、EAP※2を通じて、社員が抱えるさまざまな悩みについて、外部相談窓口のカウン

セリングを通して解決を図っています。

### 多様性の確保

日立マクセルでは、「人権の尊重」、「差別の撤廃」を「行動規範」に明記し、平等な雇用・人事システムの構築、人権啓発に取り組んでいます。

2012年度の障害者雇用率は、2.10%、定年退職者の再雇用数は31名、外国人雇用数は35名でした。

※1 Occupational Safety and Health Management System 中央労働災害防止協会が認定する労働安全衛生マネジメントシステム

※2 Employee Assistance Program (従業員支援プログラム)

## CSR活動報告

# 環境報告

地球環境と事業活動を持続的なものにするため環境への負荷を低減する取り組みを推進しています。



**WEB** WEBでも情報を開示しています。  
<http://www.maxell.co.jp/jpn/csr/index.html>

### 環境マインド&グローバル環境経営

#### 取り組みのポイント

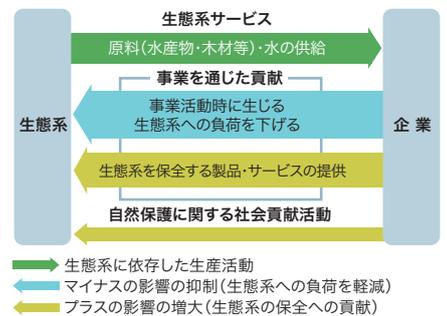
マクセルグループでは、経団連が定めた地球環境憲章を支持し、「企業行動基準」に基づいて、「環境保護行動指針」を策定しています。また、2009年度から「日本経団連生物多様性宣言」の趣旨に賛同し、同宣言の「推進パートナーズ」に参加しています。

また、環境管理体制としては、国内7地区で2008年に統合認証を取得しています。

2012年度は、環境関連の事故・罰金・苦情はありませんでした。

欧州における化学物質規制である「REACH」への対応としては、2012年度は、CRコイン電池電解液に使用している物質が新規SVHC※1に該当したのでECHA※2に届け出ました。

#### 生態系と企業のかかわり



### 2012年度の環境行動目標と実績

カテゴリー	項目	2012年度目標		2012年度結果	自己評価
環境マインド&グローバル環境経営	環境リテラシー(活用能力)の醸成	エコマインド教育(eラーニング)の受講推進		100%受講	🌿🌿
次世代製品とサービスの提供	エコプロダクツの推進	環境適合製品の拡大	売上高比率※3 81%	84%	🌿🌿
	環境CSRモノづくりの推進	REACH規則対応		含有成分調査の実施	🌿🌿
環境に高いレベルで配慮した工場とオフィス	地球温暖化防止	CO <sub>2</sub> 排出量削減(国内)	30%削減(1990年度比)	52%削減	🌿🌿
		生産高CO <sub>2</sub> 原単位※4削減	16%削減(国内)(2005年度比)	14%削減	🌿
		生産高CO <sub>2</sub> 原単位削減(国内)(海外)	(2005年度比) 21%増	21%増	🌿🌿
		輸送時のエネルギー削減(国内)	14%削減	5%削減	🌿
資源の有効利用	生産高廃棄物原単位※5削減	17%削減(国内)(2005年度比)	13%削減	🌿	
化学物質管理	VOC※6排出割合※7	5%以下	3.8%	🌿🌿	

※1 Substances of Very High Concern(高懸念物質)

※2 European Chemicals Agency(欧州化学物質庁)

※3 売上高比率=(環境適合製品売上高)/(マクセルグループの全売上高)

※4 生産高CO<sub>2</sub>原単位=(CO<sub>2</sub>排出量)/(生産高)

※5 生産高廃棄物原単位=(廃棄物発生量)/(生産高)

※6 Volatile Organic Compounds(揮発性有機化合物の略で、トルエンやメチルエチルケトンなどの揮発性を有し大気中で気体状となる有機化合物)の総称

※7 VOC排出割合=(排出量)/(取扱量)

[評価基準] 🌿🌿:達成 🌿:一部達成